

仙台医療福祉専門学校
令和2年度 学校関係者評価報告書

令和3年6月

学校法人 北杜学園
仙台医療福祉専門学校

◆ 令和2年度 学校関係者評価について

学校法人北杜学園 仙台医療福祉専門学校は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいた評価項目に沿って実施・作成した、「令和2年度自己点検・評価報告書」の結果について、学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価を実施いたしました。

本校に関係の深い方々から幅広くいただいたご意見・ご提言を評価項目毎に要約し、本報告書に取りまとめました。「令和2年度自己点検・評価報告書」と共にご覧ください。

関係の皆様からいただいた貴重なご意見・ご提言は今後の改善策に盛り込み、学生により良い教育と環境を継続的に提供し、常に質の高い専門職業人を養成してまいりたいと存じます。

令和3年6月
 学校法人北杜学園
 仙台医療福祉専門学校
 校長 鈴木 一樹

◆ 学校関係者評価委員会 評価委員

氏名	選出区分	所属・役職
とがみ けんいち 戸上 謙一	関係施設	有限会社 ファーマシーすず 統括本部 統括部長
てらしま ゆういち 寺島 裕一	関係施設・卒業生	仙台厚生病院 医事部 次長
きたむら てつじ 北村 哲治	業界団体	仙台市薬剤師会 会長
すがさわ まさや 菅澤 昌也	関係施設・卒業生	医療法人 松田会 介護保険部 部長
こいずみ のぶやす 小泉 敦保	関係施設	株式会社 バイタルケア 代表取締役社長
こざかい ひでゆき 小坂井 秀行	関係施設・卒業生	プロンプター甲斐 有限会社 リハビリテーション部 部長

評価項目	(1) 教育理念・目標
①	理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）
②	学校における職業教育の特色は何か
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
④	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
⑤	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・「国際交流」を学校自己評価に設定して取り組まれた結果、介護福祉分野で留学生合格者を出せたことは高評価である。その先にある「社会貢献・地域貢献」とそれをどう結び付けていくかが今後の課題である。国際総合ビジネス学科の今後の活躍に期待する。</p> <p>・介護福祉分野は、年々社会のニーズが増加していくと思われる分野で、日本人合格者が全員合格というのは大変すばらしい結果と評価する。また、留学生の半数が合格したことについても、これまでの対策が適切であったと思われるので、継続していただきたい。</p> <p>・介護福祉士の養成では、日本人全員合格に加え、留学生の合格者5名という結果を残すことができ、これまでの取り組みの成果を評価する。また、社会福祉学科において、最短で社会福祉士を受験できるようになり、今後も目標を持った学生が増え、社会的ニーズに対応できると感じた。</p> <p>・理念等について、明確に定められていると思うが、コロナ禍において、例年通りの方法論で確実な周知が図れたのか。もし図れていないのであれば、周知方法について検討する良い機会になるのではないかな。</p> <p>・介護福祉士国家試験の結果、留学生5名が合格（合格率55.6%）したということは、前年の0人と比較して大幅に改善されて良かった。今後も留学生を合格させるための方法論、カリキュラム、合格までサポートできるような教育体制を確立させることができれば、他学科への波及や留学生受け入れでの他の専門学校との大きな差別化が図れると思う。特に宮城県は今後介護人材不足が深刻になることが予想されているため、留学生支援を全面的に打ち出した戦略を検討されても良いのではないかな。</p> <p>・介護福祉士養成の中で、留学生の国家試験合格率が55.6%というのは十分に評価できる。日本語的にも難しい言い回しの問題が多く、そこに対応できるように指導した教員を評価する。</p> <p>・昨今話題になっている出入国管理及び難民認定法にいち早く対応できたことは、時流に合っているわけであり、特に介護部門で活躍できる留学生の人材確保において貢献しているということも学校の大きな特徴になるはずである。</p>	

評価項目	(2) 学校運営
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか
②	事業計画に沿った運営方針が策定されているか
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
④	人事、給与に関する制度は整備されているか
⑤	教務・財務等の組織設備など意思決定システムは整備されているか
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
⑦	教育活動に関する情報公開が適切になされているか
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・業務の効率化では、新型コロナウイルス感染リスク低減を図るための対策でもある、情報のシステム化等の取り組みにより、これまでにない業務の効率化に繋がったことを評価します。</p>	

評価項目	(3) 教育活動
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
⑤	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
⑥	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか
⑧	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか
⑨	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
⑩	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか
⑪	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
⑫	関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか評価委員からの評価・意見
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか

評価委員からの評価・意見

- ・コロナ禍において思うような実習を取り入れられない中で、学内実習でロールプレイング等を取り入れてより実践に近づけられたことは高評価である。ロールプレイングも、マニュアル的にこなすだけでは無くアドリブ的要素も取り入れながらより日常的に踏み込めれば良い。
- ・学科毎に特徴あるカリキュラムが編成されているが、学科毎の横のつながりも今後は必要である。
- ・学生の満足度は、常に変化していくものである。定期的なアンケートを実施し、その改善策を具体的に実施し、再度検証してその結果をアンケートで再評価していく繰り返しが重要である。
- ・現在は行っていない非常勤講師についてのアンケートも実施する必要があるが、結果をどのようにしてフィードバックするかをしっかりと考慮しておくことが必要である。
- ・教育活動として、Web 授業へ転換や学内実習などに切り替え、ロールプレイングを取り入れる工夫をされ、学生に十分配慮できていたと評価する。また、介護福祉学科では、チームマネジメントの基礎的な知識の理解として、チームで働く能力を養う実践的なカリキュラムを開発したと記載があり、社会的ニーズに応えられる人材になることを期待する。
- ・教員確保は学校運営上死活問題になるため、教員の供給ルート開発だけでなく、卒業生を中心に教員育成についても積極的な検討をされても良いのではないかと。
- ・コロナ禍の中でどこの学校も Web 授業が中心になっている状況は今後も続くと思われ。学生はこの授業形態にどの程度満足できているのか。実習においては、今後も受け入れをためらう病院や施設が多く、学内実習ということでロールプレイング的な模擬実習を取り入れて工夫されているようだが、この結果は卒業生が就職して現場に出て初めて効果を実感できるわけであり、今年、来年の卒業生の追跡調査などができると良い。これまでの実習は実践的な知識を習得するだけでなく、人間力が試される場でもあるが、校外実習を経験しないで職に就いた学生がそれでも十分にやっつけていけるのであれば、今後新たなカリキュラムができるかもしれない。
- ・今後、教員に若い人材が多くなっていくと思うが、知識・技術・経験が申し分無く、人間的にも優れているが、人に教えるのが苦手な教員も存在する。教員採用ではその資質を見極めることが重要と考える。

評価項目	(4) 学修成果
① 就職率の向上が図られているか	
② 資格取得率の向上が図られているか	
③ 退学率の低減が図られているか	
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
評価委員からの評価・意見	
<p>・時代のニーズが以前よりも早く、また多岐にまたがり変わってきている。ニッチなニーズもその人の強みになり魅力的な人間力につながることもあるので、しっかりと業界の流れを汲み取られると良い。</p> <p>・退学率の軽減において新たな取り組みを始められたことは大きい。</p> <p>・コロナ禍により Web 面接、Web 就職セミナーが多く実施されていることから、対応できるサポートを今後も最大限に行っていただきたい。また、ダブル担任制という新たな取り組みについて、成果をお聞かせ願いたい。</p> <p>・就職企業への定期的なアンケート調査を、継続的に実施できれば良い。</p> <p>・就職支援についてもコロナ禍で大変な状況であったと思うが、Web を活用して就職セミナーを行うなど、学内で実施できたことを評価する。また、資格取得でも主催団体の出題範囲や傾向を把握したことが、より効果的な指導となり、国家試験対策でも学習課題の提供と学習法の提案の結果、資格取得率の向上に繋がっていると感じた。</p> <p>・ダブル担任制へのチャレンジ結果はどうだったのか記述すべきだと思う。ダブル担任制は留学生だけでなく、昨今の学生の特性から、良い取り組みだと思うので、良い結果であれば、介護福祉学科だけでなく他学科においても取り組むことにより、他の専門学校との差別化になるのではないかと思う。</p> <p>・問題を抱えた状況での入学者が増加していると感じているとあるが、経済的な問題や健康的な問題、環境的な問題など多岐に渡るならば、入学以前に把握しておくことが望ましく、入学早々から早めの対応が必要である。既にある程度のマニュアル、フローチャートなどを準備していると思うが、改善も必要である。</p> <p>・言語聴覚学科の卒業生は全国に飛び散っているので、入職後の状況を把握するのは難しい。卒業生の拠り所となるべき同窓会はコロナ禍により影が薄くなっている感じがする。仕事での様々な問題に悩みながら個々に頑張っているようだが、特に都心（関東圏）で働く言語聴覚士はコロナ禍によるストレスから厳しい状況にあると聞いており、学生にとっても卒業生にとっても辛い時期である。</p>	

評価項目	(5) 学生支援
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか
②	学生相談に関する体制は整備されているか
③	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか
⑦	保護者と適切に連携しているか
⑧	卒業生への支援体制はあるか
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
⑩	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・国家試験の不合格者で、再受験を望む卒業生に対する集中講座の開設を検討されてはどうか。そのようなフォローがあれば、再受験も考慮するはずである。</p> <p>・令和2年度は学生の生活も大変であったと思うが、これまでの奨学金制度の他にも、学校独自で行っている強化策が実行できたことを評価する。また、コロナ禍でアルバイト学生向けの給付金など、学校が窓口となり、申請を滞りなく完了したことも評価する。</p> <p>・Wi-Fi 環境整備が整ったことは非常に良い事である。次のインフラ整備として、スマホでのオンライン授業では画面の大きさや操作性など、学生にとって受け辛さがあると考えられるので、タブレット端末付与などを検討されるべきだと思う。特に介護関連職種は、企業側でもタブレットを使用した業務が多くなっているため、その経験が就業時スキルとして有効になるのではないかと思う。</p> <p>・就職活動のための就職指導では、履歴書の作成から模擬面接指導と至れり尽くせりで、ある意味学生の自主性の芽が損なわれないか心配である。40年前と比べると毛頭ないが、職を求める方と雇う方との間に介在するものが形骸化している現在では仕方がないのか。</p> <p>・新型コロナウイルス感染対策として、学生のワクチン接種については学校として何か考えるところはあるのか。実習生を受け入れる病院や施設などは今後、学生のワクチン接種の有無に言及してくることもあると予想される。</p> <p>・教員に余裕があれば、卒業生向けの国家試験対策としてインターネット上での問題回答のやり取りができると良い。また、学生の国家試験対策は、入学時から始まっており、特に言語聴覚学科は2年間で知識も技術も倫理観も習得しなければならず、日々隙があれば合格への意識を刷り込んでいくことが求められる。</p>	

評価項目	(6) 教育環境
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
③	防災に対する体制は整備されているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・実習終了学生から在校生に対して実習報告会を開催し、全学生が実習に対する興味関心を高められるような場と機会があってはどうか。報告をする学生の振り返りにもなるはずである。</p> <p>・施設、設備については、今後もオンライン授業などを想定して、教育上でどの様なものが必要となるのかイメージしながら整備を求める。</p> <p>・年度末の2月、3月に大きな地震が発生したが、大規模災害・地震は突発的に起きるので教職員、学生は危機的状況の中でもどのように行動すべきかシミュレーションしておくこと重要である。その時に誰がリーダーとなって避難の先陣をきれるか、各人が判断しなければならないこともあるので。</p>	

評価項目	(7) 学生の受入れ募集
①	学生募集活動は、適正に行われているか
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
③	学納金は妥当なものとなっているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・学生を獲得するのは年々難しくなっているが、様々な年代に合わせた学生募集活動の手法を模索してみてもどうか。</p> <p>・学生の受け入れについては、ホームページやSNSを使い、分かり易い情報提供ができ、教務と連携してオープンキャンパスを通年で行っていることを評価する。また、オンラインも活用して、学校説明会や個別相談会を開催していることも、感染リスクに考慮した学生募集に繋がっていると感じる。</p>	

評価項目	(8) 財務
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
③	財務について会計監査が適正に行われているか
④	財務情報公開の体制整備はできているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・財務情報は、HP上で確認でき、説明責任は十分果たされていると評価する。</p> <p>・財務については、中長期的に学校の財務基盤が安定していること、情報公開の体制として、学園ホームページでも公開され、説明責任を果たしていると評価する。</p>	

評価項目	(9) 法令等の遵守
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
③	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
④	自己評価結果を公開しているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・各法令、ガイドラインを遵守しており、健全運営されていると評価する。</p> <p>・法令等の遵守では、教務コンプライアンス委員会を設置して、養成課程では自己点検の習慣化がなされている。また、個人情報保護についてもデータ管理を厳密にしており、学園内でルールを定めていることを評価する。</p>	

評価項目	(10) 社会貢献・地域貢献
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
③	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・施設の提供、教職員の派遣など、社会貢献・地域貢献に努めており高く評価する。</p> <p>・地域のイベントへ参加について、現在は新型コロナウイルス感染拡大の関係でほとんど実施されていないが、状況が落ち着いた後、各自治体、団体、企業が開催するイベントに積極的に手を上げ参加することで、学生たちの意識向上に繋がるであろう。</p> <p>・社会貢献と地域貢献では、学生のボランティア活動が行いやすくなるような工夫がされている。しかし、令和2年度は、コロナ禍でボランティア活動が制限されていたので、環境が整い次第、再開できることを期待する。</p> <p>・宮城県では3～4年前から地域包括ケアシステムを構築し、地域での介護予防事業に言語聴覚士が呼ばれることが多くなり、貴校の教員にも参加・貢献していただいている。本年度から「フレイル予防事業」も始まる予定で、言語聴覚士・理学療法士・作業療法士のリハビリ職、管理栄養士、介護福祉士、保健師、薬剤師、歯科衛生士、看護師など多職種連携のもとで進められます。コロナ禍でどのような支援になるのか近々指針が出るが、言語聴覚士養成の役割が益々大きくなってきている。</p> <p>・学業とボランティア活動の両立は難しいので、負担を感じるならば、学業優先にすべきである。貴校の卒業生は地域でのボランティア活動はいくらでも求められる環境下に就職することになるので、コロナ禍ではあえてボランティア活動を抑えても良いのでないか。</p>	

評価項目	(11) 国際交流
①	留学生の受入れについて戦略を持って国際交流を行っているか
②	受入れにおいて適切な手続き等がとられているか
③	学習成果が評価される取組を行っているか
④	学内で適切な体制が整備されているか
評価委員からの評価・意見	
<p>・留学生のビジネスマナー研修先としてホテルのフロントスタッフの接遇が良いのではないかと最近外国人がフロント業務をされていることもよく目にする。また、併せて医療系の接遇研修（ホスピタリティー）も外部委託されても良いのではないかと。</p> <p>・留学生に対する専門的分野での人材育成需要は、今後も高まってくると思われる。留学生の受け入れは貴校だと言われるよう、学校の特色となることを推進してみてもどうか。</p> <p>・国際交流については、学校側が留学生を受け入れることで、様々な手続きの手伝いが必要となり負担も多くなるが、しっかりと課題に取り組んで受け入れ態勢を構築していることを評価する。</p> <p>・留学生の受け入れには苦勞を伴いながらも積極的に環境整備、体制整備を行いステップアップしていると評価する。今後更なる整備が必要であるが、是非それらの課題を克服し、多くの留学生を受け入れ、他の専門学校との圧倒的な差別化になるよう進めて欲しい。</p> <p>・特に宮城県は介護人材養成が喫緊の課題であるため、介護福祉士合格までのサポート体制の構築とその後の就職サポートまで、戦略的に進めてもらいたい。</p> <p>・留学生が日本語能力試験で短期間に2級に合格するには、大変な努力をした結果であり、奨励金制度はとても良いことである。さらに学内、クラス内などの学校生活におけるリーダーシップや人間性等にも焦点をあてて学習成果以外のところでも評価するべきでないか。</p> <p>・コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言や蔓延防止策により多くの留学生がアルバイトをできない状態が続いており、それに対して経済面でのサポートを行うことは留学生にとって大変喜ばしいことであろう。日本人学生でも大変な世の中なのに、留学生が学習意欲を持ち続け、さらに就職活動に立ち向かうには学校側のサポートが不可欠である。そこをしっかりと行っている学校の姿勢は大変評価できる。</p>	